

第1回

ハナショウブ小説賞 大賞受賞作

長編
部門

ハートレス・ケア

小原瑞樹 装画：スカイエマ

これは、全ての
介護職員に贈る
肯定の物語。

- この作品を読んで、介護の可能性、未来を信じたい気持ちになった。
深谷 守さん(テレビ東京プロデューサー)
- 大石は悩み抜きいったいどんな結論をだすのか。介護に必要なこととはいったい何なのか。
どれだけきつくて、私は底辺の仕事だとは思わない。 あおいさん(レビュアー)
- 介護業界に興味を持っている人に勧めたい一冊。もしくは就職活動をする前の学生にもお勧めしたい! 仕事を辞めなくなった時、自分のことを肯定できなくなった時、そういう時に安心して読める一冊だと思う。
フラノさん(レビュアー)
- 介護する側の思いが正直で、胸に迫ってくる。介護する側、される側、両方の思いがしみじみと伝わってくる作品だった。
広緒 恵利子さん(教育関係者)
- 仕事についても、介護についても考えさせられるお話でした。
C.S. さん(図書館関係者)
- 転職活動に向けて辛抱しながらの介護士だけど真面目で真剣に向き合い、考える正人が素敵でした。
森田洋子さん(書店員)



反響続々!!

opsol
book